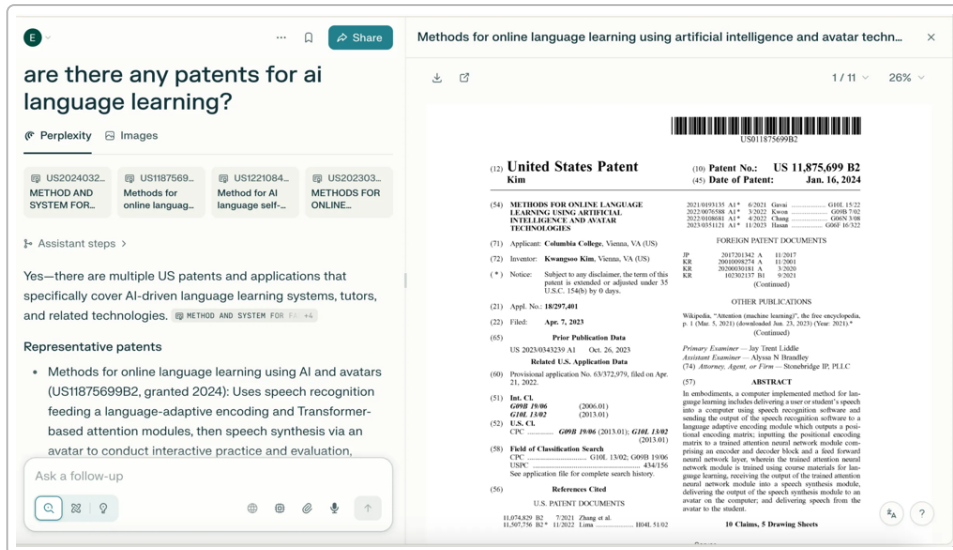


Perplexity Patents（製品概要）

Perplexity Patentsは、AIを活用した新しい特許検索サービスであり、AI回答エンジンを提供するスタートアップ**Perplexity AI**（CEO：Aravind Srinivas）によって2025年10月に発表されました¹。Perplexity AIは元米国特許商標庁(USPTO)のAI担当官であるJerry Ma氏らもチームに擁しており、このサービスは「世界初のAI特許リサーチエージェント」と称されています²。従来、特許検索は高度なキーワード指定や複雑なクエリ構文を要し、専門家向けの有料データベースは高価で訓練も必要でした³。Perplexity Patentsはその状況を変え、**誰もが自然な質問で特許情報にアクセスし、明確な回答を迅速に得られること**を目的としています⁴⁵。専門家以外のエンジニアや研究者でも使いやすくすることで、知的財産（IP）に関する知見の民主化を目指したサービスです。

主な特徴と機能

- ・**自然言語質問による検索**: ユーザーは日常の言葉で質問を入力するだけで、複雑なブール式や専門コードを使う必要がありません⁵。例えば「AIを使った語学学習に関する特許はある?」「2024年以降の量子コンピュータ関連の主要な特許は?」といった質問をそのまま投げかけることができます⁶。Perplexity Patentsは質問文から意図を理解し、自動的に関連する特許を検索してくれます。
- ・**対話型のインターフェース**: 一問一答で終わらず、**会話の履歴と文脈を保持**したまま追加の質問（フォローアップ）をすることが可能です⁷。初回の質問で得た結果に対し、「ではこの中で最新の特許は?」「特許Aと特許Bの違いを教えてください」といった追問を行えば、文脈を踏まえて回答が返ってきます⁸。関連トピックの提案も提示され、ユーザーが調査を深掘りしやすい工夫がされています⁷。
- ・**AIによる要約と引用提示**: 検索結果は単なる特許リストではなく、**AIが内容を平易な言葉で要約した回答**として提示されます⁹。主要な関連特許の概要やポイントが簡潔に示されるため、長大な明細書全文を読まなくても発明の趣旨を把握できます¹⁰。各回答には**出典となる特許番号や文献が明示**されており、直接クリックして原文にあたることもできます¹¹。さらに特許ビューアがインライン表示され、画面遷移せずに明細書や図面を確認できる点も特徴です¹²。
- ・**高度な検索精度（同義語・概念検索）**: Perplexity Patentsは単純なキーワードの一致にとどまらず、**意味的に関連する概念まで網羅**して結果を探し出します¹³。例えば従来型のツールでは「フィットネストラッカー」で検索するとその語を含む特許しかヒットしないかもしれませんが、本サービスでは「アクティビティバンド」「歩数計付き腕時計」「ヘルスマニタリング機器」といった表現の特許まで含めて提示します¹³。キーワードの言い換えや類義語もAIが理解して網羅的に関連特許を探すため、見落としを減らせる利点があります¹⁴。
- ・**複数ソース横断検索**: 特許文献だけでなく、必要に応じて**学術論文、オープンソースのソフトウェアリポジトリ、技術ブログ等も横断的に調査**し、最新のアイデアや関連技術動向を捉えられます¹⁵。例えばある発明に関連する先行技術がブログ記事やGitHub上のコードに見つかれば、それも回答に組み込まれる可能性があります¹⁵。これにより、特許文献の枠を超えてアイデアの萌芽から実用化まで幅広く視野に入れ、技術の全体像を把握することができます¹⁶。
- ・**画像による特許検索**: テキストだけでなく**画像から類似の発明を検索する機能**も備えています¹⁷。ユーザーが装置のスケッチや製品画像をアップロードすると、AIが視覚的特徴を解析し、**形状や設計が似た既存特許**を見つけ出します¹⁷。これは機械装置やデザイン特許の調査に有用で、従来は困難だった図面ベースの特許検索を可能にする画期的な機能です¹⁷。



以下のスクリーンショットは「are there any patents for AI language learning?」（「AIを用いた語学学習に関する特許はありますか?」）という質問を入力した例です。Perplexity Patentsは、関連する特許が複数存在することを要約して「Yes—」から始まる回答を返し、代表的な特許（米国特許番号とタイトル）を上部にカード状に一覧表示しています。ユーザーが各特許カードをクリックすると、画面右側にその特許の詳細情報（明細書の抜粋やPDFビュー）がインライン表示され、ページ遷移せずに内容を閲覧できます。画面下部には「Ask a follow-up」と表示されており、さらに追問して調査を深められる対話型の設計となっています。このように**検索・要約・原文閲覧・対話**がシームレスに統合されたインターフェースがPerplexity Patentsの大きな特徴です。

技術的仕組み

Perplexity Patentsの背後では、**大規模言語モデル(LLM)**を用いた高度なAIエージェントが動作しています¹⁸。このエージェントはユーザーの自然文クエリを解釈し、複雑な質問を内部でいくつかの具体的な情報検索タスクに分解します¹⁹。各タスクはPerplexity独自の**エクサバイト規模の検索インフラ**上に構築された**特許ナレッジインデックス**に対して実行され、関連文書の集合を取得します¹⁹²⁰。取得された多数の文献をもとにAIが追加のフォローアップ検索や情報抽出を重ね、最終的に質問に対する回答を作成します。その回答生成には時に数十から数百もの関連文献が参照され、根拠の明示された回答が導き出されます²¹。

この「**エージェント型検索システム**」は単に文字列マッチングするだけでなく、**意味的検索（セマンティック検索）**と**従来型のキーワード検索**を組み合わせたハイブリッドな情報検索を行います¹⁴²²。ユーザーの意図をAIが汲み取り、同義語や関連概念まで射程に入れる一方、特許番号や発明者名など明確なキーワードも逃さず扱います。Perplexity AIは情報検索基盤として**2000億以上のURLを索引しミリ秒単位で応答する大規模クローラ&インデックス技術**を開発しており²³²⁴、その成果がPerplexity Patentsにも活かされています。つまり、最新の**検索インフラ**と**生成AI (LLM)**を組み合わせることで、質問の意図理解から関連特許群の抽出・要約・回答生成までを一気通貫で行っているのです¹⁸。これによりユーザーは複雑なクエリ構築の手間から解放され、AIが裏で走る高度な検索アルゴリズムによって**リアルタイムに近い応答速度**で回答を得ることができます²⁵。

使い方（ベータ版の提供形態・料金プラン）

Perplexity Patentsの利用方法はシンプルで、専用のソフトをインストールしたり特定サイトにアクセスする必要はありません。従来のPerplexity AIのサービス内でそのまま**特許に関する質問を入力**すれば、自動的にこの特許検索エージェントが動作します²⁶。2025年10月のローンチ時点では**ベータ版**として全世界で提供されており、β期間中は**すべてのユーザーが無料**で利用できます²⁷。Perplexity AIには無料プランの他に有

料の**Proプラン**や**Maxプラン**がありますが、ベータ中のPerplexity Patentsは無料ユーザーを含め**誰でも試せる**よう開放されています²⁷。まずはサイト上で特許関連の質問を入力し、出てきた回答や特許リストを閲覧・追問するという流れで利用できます。

将来的な正式版提供に向け、Perplexity Patentsは**フリーミアムモデル**での運用が予定されています²⁸。具体的には、無料プランでも基本的な機能は使えますが、**ProやMaxの有料会員**にはより多くの検索クエリ実行や長文回答など**追加の使用枠・高度なモデル設定**が提供される見込みです²⁷。実際、Perplexity AI全体の価格体系ではProプランが月額約20ドル、Maxプランが月額約200ドルとされており、それぞれ上位の**GPT-4.1**など強力なモデルへのアクセスや無制限の高度検索が含まれます²⁹。Perplexity Patentsにおいても、ProやMaxでは**1日あたり実行できる検索回数の増加や応答モデルのカスタマイズ（高度なAIモデルの利用）**等が可能になると案内されています²⁷。なお現在はベータ提供中のため正式な料金プランは確定していませんが、基本サービス部分は広く無料開放しつつ、ヘビーユースや専門利用にはサブスクリプションで応える形になるようです。

ユースケース（活用場面と想定ユーザー）

Perplexity Patentsは、**発明や特許に関わる幅広い場面で活用**が期待できます。従来の特許調査は専門家の領域でしたが、本サービスによって以下のようなユーザー層でも容易に特許リサーチが可能になります。

- ・**発明者・エンジニア**：個人の発明家やスタートアップのエンジニアは、製品開発前に**アイデアの先行技術（prior art）調査**を素早く行えます。試作品に時間と資金を投入する前に、**似た発明が既に特許化されていないか**数分で確認できるため、重複開発のリスクを減らしプロジェクトの方向性を定めやすくなります³⁰。専門的な特許分類知識がなくても対話形式で結果を得られるため、初学者や個人発明者でも**特許調査のハードルが大きく下がります**³⁰。
- ・**研究者・学術関係者**：大学や企業の研究者にとっても、関連分野の**特許文献による先行研究調査**は重要です。Perplexity Patentsなら論文検索と同じ感覚でキーワードや質問を投げかけ、**従来は数日かかった特許調査を数時間に短縮**できます³¹。博士課程の学生が自分の研究分野の既存技術を把握したり、新規性のギャップを見つける上でも有用で、学術論文だけでなく特許まで含めた包括的なサーベイが効率良く行えます³¹。
- ・**特許弁護士・知財担当者**：プロの特許法律家や特許事務所のスタッフにとっては、明細書作成や出願の前段階で**関連特許の下調べ**を素早く行うツールとして役立ちます³²。訴訟や無効調査など正式な場面では引き続き専用データベースや熟練の検索技術が必要ですが、Perplexity Patentsにより新しい技術分野の概要把握やクライアントへの説明準備が**飛躍的に効率化**します³²。専門用語だらけの特許文献もAIが平易化して要点を示すため、クライアントに発明内容を説明する際にも役立つでしょう³³。
- ・**企業のR&D・製品開発チーム**：企業の研究開発部門では、競合他社の特許動向を把握したり、自社製品が他社特許を侵害しないよう**設計迂回（デザインアラウンド）戦略**を検討する必要があります。Perplexity Patentsを使えば、**競合企業の最近の特許**を対話的に調べたり、関連技術のトレンド分析を迅速に行えます³⁴。また画像検索機能により、開発中のデザインが既存の意匠特許に抵触しないか**ビジュアルにチェック**することも可能です³⁵。これらは製品開発段階での知財リスク管理や技術ロードマップ策定に有益です。
- ・**中小企業の知財担当・法律事務所**：高額な商用特許データベースを導入できない**中小規模の企業や法律事務所**にとって、Perplexity Patentsはコストパフォーマンスに優れた特許調査ツールとなり得ます。月額数万円にもなるプロ向けDBの代替として、月額数千～数万円で多くの調査ニーズをカバーでき、**小規模チームでも大手と遜色ない調査が可能**になります³⁶。結果として、中小企業・スタートアップでも知財戦略を立てやすくなり、イノベーションの促進につながるでしょう。

このように**発明のアイデア段階から特許出願・競合調査・訴訟準備まで**、幅広い場面でPerplexity Patentsは有用です³⁷。実際、専門の特許検索者でなくとも扱えるため「特許調査の民主化」が進み、既存技術を踏まえた発明創出や迅速な技術革新に寄与すると期待されています³⁷。ある報道では「スタートアップが製品ローンチ前に特許状況を評価する場合や、研究者が既存の技術を確認する場合、発明者がアイデアの新規性を判断する場合など、あらゆる場面でよりアクセスしやすい特許検索ツールは恩恵をもたらすだろう」と指摘されています³⁷。

競合製品との比較（Google Patents・WIPO Patentscope・The Lensなど）

Perplexity Patentsは、従来から使われてきた特許検索ツールやデータベースと比較して**ユーザー体験とアプローチが大きく異なる**のが特徴です。他の代表的な特許検索プラットフォームとして、Google Patents、WIPO Patentscope、The Lensなどがありますが、それぞれ長所と短所があります。以下にそれら競合との違いとPerplexity Patentsの優位点をまとめます。

- **Google Patents:** Googleが提供する無料の特許検索エンジンで、**全世界の特許データベースを横断し**多数の特許庁（USPTO、EPO、JPOなど）の公報を一括検索できます³⁸。公開特許・登録特許約1億件以上を網羅し、日付・出願人・発明者などによる**豊富なフィルタリング**、特許PDFのダウンロード、機械翻訳による多言語特許の閲覧など機能も充実しています³⁹⁴⁰。近年は**語義検索（セマンティック検索）的なクエリ**もサポートし、平易な言葉で技術内容を記述しても関連特許をある程度探せるよう改良されました⁴¹。しかしGoogle Patentsが返すのは該当特許のリストと原文へのリンクであり、**AIが要約した回答や対話による追加調査機能はありません**。専門知識がないユーザーには依然として結果の解釈にハードルがあり、適切なキーワード選定もユーザーに委ねられます⁴²。一方、**Perplexity Patentsは対話型AIが検索から要約まで担うため**、検索構文を学ぶ必要がなく⁴³、特許の技術内容も平易な言葉で理解できます⁴²。総じて**網羅性や公式性ではGoogle Patentsが勝りますが**（多くの特許庁データに直接アクセス可能）、**検索の手軽さ・回答の分かりやすさではPerplexity Patentsが優れています**⁴⁴。実際「網羅的な全世界特許調査にはGoogle Patents、技術動向の概要把握やアイデア段階の探索にはPerplexity Patents」という使い分けも提案されています⁴⁴。

- **WIPO Patentscope:** 世界知的所有権機関(WIPO)が提供する無料の特許データベースで、**PCT国際出願を中心に全世界で8300万件以上の特許文献**を収録しています⁴⁵。WIPO Patentscopeはインターフェースを9言語に切り替え可能で、多言語でのキーワード検索や、フィールド指定・ブール演算子による高度な検索をサポートしています⁴⁶⁴⁷。機械翻訳も統合されており、例えば日本語で検索して英語や中国語の特許公報をヒットさせることもできます。強力な無料ツールですが、検索には特許分類や出願人名など専門的な指定が可能な一方、**ユーザー自身が検索式を工夫する必要がある点でハードルが高く**、ヒットした公報も生の文章を自分で読み解かなければなりません⁴⁸⁴⁷。Perplexity Patentsはこうした**専門知識を要する部分をAIが肩代わりし**、平易な質問文から関連特許を見つけ出し内容を要約してくれます。したがって「全世界の特許データに直接アクセスできる公式DB」としての**Patentscopeの役割と**、「AIが調査・要約してくれるアシスタント」としての**Perplexity Patentsの役割**は補完的と言えます。特に英語以外も含めた包括的調査ではPatentscopeの活用も有効ですが、**専門家でないユーザーが迅速に知見を得るにはPerplexity Patentsが使いやすいでしょう**。

- **The Lens (レンズ):** オープンアクセスの特許・学術文献データベースで、Cambiaとクイーンズランド工科大学による非営利プロジェクトです。Lensは**全世界105の特許庁から約1億2千万件の特許文献**を収録すると共に、**学術論文（Non-Patent Literature, NPL）**とも紐付けして技術と科学の両面から検索できるのが特徴です⁴⁹。特許ファミリー（同一発明の関連特許）情報や引用関係、法的ステータスの追跡、化学配列検索など**分析機能も豊富**で、可視化グラフによる技術動向分析も可能です⁵⁰。

⁵¹。UIは洗練されており多機能ながら比較的扱いやすいと評価されています⁵²。しかしLensもGoogle Patents同様、**ユーザーが自ら検索クエリを設定し、結果一覧から必要な情報を読み取るスタイル**であり、特許の内容を自動要約してくれるような機能はありません。どちらかと言えば専門の特許調査員や知財分析担当者向けのツールであり、膨大な機能を使いこなすには習熟が必要です。一方、**Perplexity Patentsは対話形式で必要な情報にアクセスできる点で敷居が低く、深い分析よりも迅速な情報収集・理解に適しています**。Lensが得意とする学術文献との統合分析も、Perplexity PatentsはAIが必要に応じて関連論文への言及を行うことで一定程度カバーします¹⁵。したがって、**特許と論文を横断した詳細なデータ分析にはLens、目的の特許や技術概要の素早い把握にはPerplexity Patents**という使い分けが考えられます。

なお上記の他にも、欧州特許庁のEspacenet、各国特許庁のデータベース、商用のDerwent InnovationやPatBaseなど多くの特許検索ツールがあります。それら既存プラットフォームは長年にわたり蓄積された信頼性や専門機能を備える一方で、「検索と結果確認」という従来型アプローチに留まっています⁵³。Perplexity Patentsは**最新の生成AIによるインタラクティブな検索体験**を持ち込み、従来のプラットフォームが「専門家のための道具」だったのに対し「**誰もが使える対話型パテントエージェント**」という新たなポジションを築いている点で革新的です⁵³。

今後の展望・アップデート予定

2025年10月のベータ版ローンチ直後から、ユーザーからは既に「**より幅広い検索機能**」への要望も寄せられているといえます²。例えば現時点では主に**先行技術調査（prior art クエリ）**にフォーカスしていますが、将来的には**特定の特許番号や出願人での検索、特許請求項の比較解析**など、より専門的なクエリにも対応していく可能性があります。またサービス開始時点では英語圏の特許に強みがあるとみられますが、今後データソースを拡充し**国際的な特許網羅性の強化**や多言語での質問対応が図られるでしょう⁵⁴。実際、Perplexity Patentsはまず米国特許データに注力しつつ、グローバル展開にはGoogle Patents等との併用を推奨する記述もありました⁵⁴。今後のアップデートで世界各国の特許公報をより網羅的に扱えるようになることが期待されます。

さらに、Perplexity AIは**学術論文向けの「Perplexity Scholar」**という新製品も予告しており、特許分野以外でも同様のAIアプローチでリサーチ支援を拡大する方針です⁵⁵。Perplexity Scholarが実現すれば、学術文献の調査も対話型AIエージェントが支援するようになり、Perplexity Patentsとの連携で**研究開発の文献調査全般をカバー**できる可能性があります。

現状ベータ版のPerplexity Patentsについて、法律実務の専門家からは「AIの要約は便利だが法的判断に使う際は最終確認が必要」といった慎重な意見もあります⁵⁶。これは、AIが生成する要約や回答が完全に正確・網羅的である保証はないため、重要な局面では**人間の確認や従来ツールでの裏付け**が不可欠という指摘です⁵⁶。Perplexity AI側もユーザーフィードバックを受けて回答精度や検索範囲の改善を続けると考えられ、正式版リリースまでにAIモデルのアップデートやUI機能の強化が進むでしょう。例えば、ユーザーインターフェース面では企業利用を見据えた**コラボレーション機能**や**検索ログ管理**、技術面では**最新の大規模モデル適用**や**ドメイン特化チューニング**による精度向上などが期待できます。

総じて、Perplexity Patentsは「**誰もが使える特許調査AI**」という新しい市場を切り開いており、今後も知財分野へのAI活用を牽引していく存在と目されています。特許検索の手法が専門家の手から解放され、多くの人々がアイデア創出や技術革新に特許情報を活用できるようになることで、**イノベーションの加速**が期待できるでしょう³⁷。現在ベータ版ながら利用者の反響も大きく、今後のアップデートによってさらに実用性が高まれば、Google Patents等に代わる主要ツールとして定着する可能性もあります。「Perplexity Patentsの登場は、煩雑だった特許リサーチを少しだけシンプルにしてくれるだろう」と報じるメディアもあり⁵⁷、今後の発展に注目が集まっています。

References: ⁴ ³ ²⁰ ² ¹ ⁷ ¹⁶ ¹⁰ ¹⁴ ⁵³ ⁵⁸ ⁴² ⁴⁴ ⁴⁵ ⁴⁹

1 5 7 12 16 55 Aravind Srinivas introduces ‘Perplexity Patents’, an AI-powered patent research tool: Who can use it and how it works | Mint

<https://www.livemint.com/technology/tech-news/aravind-srinivas-introduces-perplexity-patents-an-ai-powered-patent-research-tool-who-can-use-it-and-how-it-works-11761879026339.html>

2 Perplexity Debuts New AI Patent Tool, Users Eager for Updates

<https://news.bloomberglaw.com/ip-law/perplexity-debuts-new-ai-patent-tool-users-eager-for-updates>

3 4 6 8 11 13 15 19 20 21 25 27 Introducing Perplexity Patents: AI-Powered Patent Search for Everyone

<https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-perplexity-patents>

9 10 26 57 Perplexity’s new AI tool aims to simplify patent research | The Verge

<https://www.theverge.com/news/811340/perplexity-ai-patent-research-tool>

14 28 37 53 56 58 Perplexity Launches AI Patent Tool to Transform Legal Research | The Tech Buzz

<https://www.techbuzz.ai/articles/perplexity-launches-ai-patent-tool-to-transform-legal-research>

17 18 30 31 32 33 34 35 36 38 42 43 44 54 Perplexity Launches AI Patent Search Engine - Game Changer for Inventors | ThePromptBuddy

<https://www.thepromptbuddy.com/prompts/perplexity-launches-ai-patent-search-engine-game-changer-for-inventors>

22 23 24 Architecting and Evaluating an AI-First Search API

<https://research.perplexity.ai/articles/architecting-and-evaluating-an-ai-first-search-api>

29 Orb | Perplexity pricing in 2025: Free vs. Pro, features, and costs

<https://www.withorb.com/blog/perplexity-pricing>

39 40 45 46 47 48 49 50 51 52 Top 18 Patent Databases - The only list you will ever need!

<https://www.greyb.com/blog/patent-databases-best-search-platforms/>

41 Best Patent Search Engines and Tools for Inventors

<https://www.upcounsel.com/patent-search-tools>